二〇二六年4月1日（毎月1回1日発行）
第3種郵便物認可　昭和4年3月2日

心のともしび

No.816　2026年4月

「復　活」

暗いと不平を言うよりも
すすんであかりをつけましょう

希望の種

菊地功枢機卿（東京教区大司教）

御復活おめでとうございます。

「希望の巡礼者」は、昨年一年の聖年のテーマでした。様式や目的地は異なれど、祈りの旅路へと出かけた方も多くおられたことでしょう。実は希望の巡礼者の旅路は、聖年が終わったからおしまいではなく、これからも続けていく旅路です。

わたしたちを取り巻く社会の現実を見るとき、果たしてそこに希望があるでしょうか。コロナ禍で行く先を見失った世界は、利己主義に彩られ、各地で武力による紛争が起こりました。希望ではなく絶望が力を誇っています。

神がその愛を込めてご自分の似姿として創造された人間の命は、ありとあらゆる暴力にさらされ、その尊厳がないがしろにされ続けています。命が一つの例外もなく大切にされ、人間の尊厳がまもられなければ、この世界に希望は生まれません。

いまや人間の命は様々な形の危機にさらされています。その命を守るために、衣・食・住といった物質的な支援をすることは可能です。それによって人間は命をつなぐことができます。しかし物質的支援だけでは、希望は生まれません。なぜならば、希望は「もの」ではないからです。どこからか希望を持ってきて、絶望に打ちひしがれる人に与えることはできません。

希望は、人との出会いから生まれます。人と人とのつながりから生み出されます。

復活の日、朝早く、主の墓についたマグダラのマリアたちは、主の天使に出会い、そして復活されたイエスご自身に出会い（マタイ福音）、その出会いによって絶望から解き放たれ、命を生きる希望を心に抱くことができました。

希望の巡礼者としての歩みを続けましょう。心に希望を抱いて、それを言葉と行いで示し、出会う人たちと分かち合う希望の旅路を続けましょう。

ホームページ（https://www.tomoshibi.or.jp）

【聖年　希望の巡礼者】

カトリック教会は、25年ごとに「聖年」と呼ばれる特別な年を定めています。これは、旧約聖書のレビ記25章に記されている、ヨベルの年に由来するものです。聖年は、巡礼や愛のわざを行い、神に立ち帰り、免償の恵みを受ける特別な時です。前教皇フランシスコは、2025年の聖年に向けて、「希望の巡礼者」として歩むよう呼びかけられました。今もその歩みが続いています。

仮事務所 連絡先　（電話：075-211-9341　FAX：075-211-9343）
〒602-0934 京都市上京区一条殿町502-1 カトリック西陣教会青年会館内　心のともしび運動YBU本部

©1955 心のともしび運動YBU本部

（振替口座01040-5-5242）